社会学演習 II

科目ナンバリング　SEM-302
必修　　2単位

中谷　直司

1. 授業の概要（ねらい）

【障碍などで配慮が必要な場合は、LMS上に記載するメールアドレスに連絡を下さい（大学からの連絡は履修が最終確定して以降になるため】

　本ゼミは、社会学、政治学、国際関係論、経済学など、様々な社会科学の枠組みを組み合わせて、国際社会と日本の関係を考察することを大きな共通テーマとします。前期では各自の研究テーマに関連した課題文献の読解・プレゼン・ディスカッションを行いました。こうして習得した知識と考え方を踏まえて、後期では、国際関係研究の教科書を題材に、社会科学の研究手法について理解と知見を深めます。その上で、各自の卒研の構想を発表し、その内容にもとづいた文献の読解と中間報告を実施します（3年生）。

2. 授業の到達目標

（1）学修の目的

・多様な価値観を持った社会の成員が、国内社会にも国際社会にも存在することを理解し、包摂できる国内社会と国際社会を構想できる。
・現代社会の諸問題について、国内社会と国際社会を結びつける形で、他者と意見を交換し、自他の意見を深めて結論を導くことができる。

（2）そのための手段

・収集した資料を論理的に読み解き、客観的な視点よりそれぞれの解決手法の評価を行い、課題の解決案を考え出すことができる。
・個人的な意見と根拠に基づく知識との違いを理解したうえで、自分の考えを表明することができる。
・第三者が理解できるようにプレゼンテーションを行うことができる。

それぞれ2つ以上でA評価、5つすべてでS評価

3. 成績評価の方法および基準

【個人得点】

①グループワークへの貢献度（司会、書記、タイムキーパー）
　＊一部ピア評価（学生間評価）を取り入れる。
②研究ノートの提出回数／内容（クオリティ）／『国際関係史の方法』の発表担当
③計3回のプレゼン報告会で質問した数

【グループ得点】

①プレゼンテーションの完成度（論理性・わかりやすさ、独創性；時間管理）
　＊一部ピア評価（学生間評価）を取り入れる。
②中間報告で質問された数

4. 教科書・参考文献

教科書
マーク・トラクテンバーグ　『国際関係史の方法』（近刊予定）　ミネルヴァ書房
参考文献
砂原庸介、稗田健志、多湖淳　『政治学の第一歩』　有斐閣（有斐閣ストゥディア）

5. 準備学修の内容

・2-4回：教科書の該当箇所に目を通し、簡単な読書メモを作成する。発表者担当者はプレゼンの準備をする（読書メモは不要）。
・5回：卒研の構想（最初期の簡単なもの）を所定のフォーマットにA4・1枚でまとめてくる。
・6-15回：卒研構想にそくした書籍をみずから選び、3冊を目標に読む。読み進めた内容は、毎週班内で毎回ミニプレゼンをする。3冊読み終わった段階で、3冊の内容から、卒研構想で仮定した問いに現時点でどのように答えられるか、10分でクラス全体に発表する。

6. その他履修上の注意事項

【取り組み方】

・演習であるので、毎回の授業への出席は必須。
・ただし座っているだけでは出席と認めないので、毎回必ず1度は発言する（練習と思う）。

【受講要件】

・未知のものへの熱意、好奇心。
・試行錯誤・遠回りを楽しむ気持ち。

7. 授業内容

【第1回】　自己紹介／演習の進め方と目的の説明／学術論文リストの配付とグループ分け
【第2回】　『国際関係史の方法』の輪読1――第2・3章を中心に
【第3回】　『国際関係史の方法』の輪読2――第4・5章を中心に
【第4回】　『国際関係史の方法』の輪読3――第6・7章を中心に
【第5回】　卒研構想の発表
【第6回】　課題文献の講読とグループ内発表
【第7回】　課題文献の講読とグループ内発表
【第8回】　課題文献の講読とグループ内発表
【第9回】　課題文献の講読とグループ内発表
【第10回】　課題文献の講読とグループ内発表
【第11回】　卒研中間報告第1回
【第12回】　卒研中間報告第2回

【第13回】　卒研中間報告第3回
【第14回】　卒研中間報告第4回
【第15回】　卒研中間報告第5回